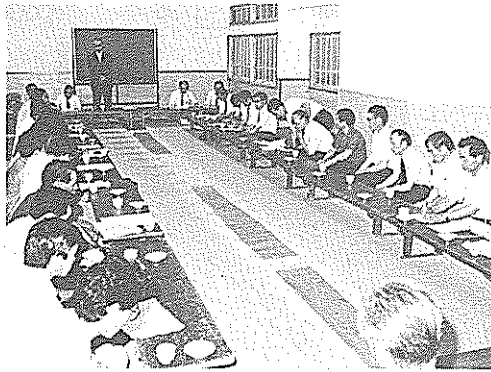


空港周辺整備は長期的展望で

環境整備は万全に

——日章地区市政こん談会——



約30人の参加で開かれた市政こん談会

空港拡張工事も順調に進み、民家防音工事の開始も間近に迫った日章地区で、七月十二日、市政こん談会が開かれました。昨年の火災後、一部修理をした日章地区公民館には、地元住民約三十人が集まり、市からは小笠原市長をはじめ、門田教育長や関係課長が出席、また地元選出の島内市議会議長も参加し、市政について熱心に話し合いました。

話し合いの主な内容

□空港周辺整備事業は年限を定めず、もつと長期的に考えてもらえないか。

■一応、年限と予算は決まっています。当初、周辺整備に百二十億円と言われていましたが、それには黒汐ラインや後川の改修なども含まれ、実際に使えるお金は少なくなります。

地元としては、周辺整備に八十億円の要望ですが、現在まで約二十億円が消化されています。この負担は、県と市が共に二分の一となつていますが、市の負担分は基金（各市町村からの出資金）二十億円の金利で賄うことで制約もあり、皆さんの要望が全て認められるのは、なかなか困難だと思います。

□集落整備事業として、道の改修など毎年同じことを申請しているが、なかなか実行してもらえない。ある地区では、何件も実行されているところがあると聞くが。

■集落整備事業は、農道や水路の改修、集会所の建設などがありますが、負担額は県が二分の一、市と地元が四分の一となっています。申請は市の企画財政課が窓口となつて、一応のランク付けはしますが、最終的には、県が現場を見て決定します。

□あけぼの保育所の早期改築を望むが、その見直しは。

■ご要望の通り早く改築しなければなりません。大森、稲生、十市などもあり、どこを先に行うかさらに検討し、早い改築に努めたいと思います。

□同和行政の現在の取り組みは、解放への学習をもつと深めるべきと思うが。

■これから国、県とも一体となつて、同和問題の啓蒙啓発に力を入れてゆきたいと思っています。

現在、メインに進めているのは小集落整備事業です。これは不良住宅の除去買取を行うと同時に、道路等を設けて、地区の生活環境の整備をはかるものです。

□比江山に、壮大な運動公園をつくらと言われていたが、現在は木材団地ができ、残地に小さなグラウンドができたが、これからはどのような計画を立てているのか。



改築が望まれている、あけぼの保育所

■膨大な借金をかかえ、壮大な運動公園をつくるのは無理と考え、財政再建のために木材団地への売却を決めました。残地については県に買い上げてもらい、公園化にするよう働きかけています。

□物部川の河口の河川敷をグラウンドにしては。

■市としても、物部川の管理者となる建設省に働きかけていますが、私有地もかなりあり費用もかかりますので、今すぐは無理です。しかし、継続的な働きかけはしてゆきます。

各部落からのアンケートに基づき、約二時間半のこん談会でしたが、やはり皆さんの関心は周辺整備事業のようで、この機会に環境整備をきちんと済ませて欲しいという声が、強く感じられました。